

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな 経済フラッシュ

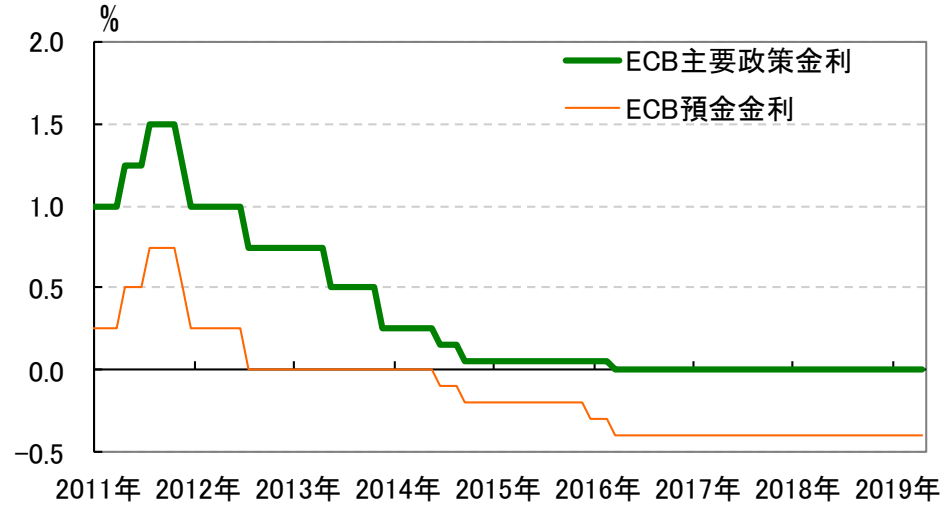
(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

〇概況

- ◆ 政策金利を「少なくとも2019年末まで」据え置くことを確認
- ◆ 新たな資金供給策 (TLTRO-III) の詳細公表は見送り
- ◆ ドラギ総裁のスタンスを受け欧州金利は低下もユーロへの影響は限定的

- ✓ 4月10日に開催されたECB (欧州中央銀行) 理事会では、**政策金利を据え置き**、主要リファイナンス金利を0.00%、中銀預金金利は▲0.40%、中銀貸出金利は0.25%とした。
- ✓ 政策金利を「**少なくとも2019年末まで**」との据置くととのフォワードガイダンス (将来の金融政策方針) を維持した。また満期を迎えた債券の償還金に関して、政策金利引き上げ後も長期間にわたり再投資を続けることを確認した。
- ✓ 前回のECB理事会で新たな資金供給策として、2019年9月から2021年3月まで四半期ごとに2年満期の資金供給を行うTLTRO-III (銀行への資金供給を通じて融資環境を整える) の導入を発表し、詳細が注目されたが、今回は公表が見送られた。
- ✓ ドラギ総裁は記者会見にて、**マイナス金利の悪影響を軽減する政策について、必要性について検討する**とした。一部に指摘されている預金の階層別金利の可能性については、今回のECB理事会ではメリットやコストについて議論されなかったとした。
- ✓ **ドラギ総裁のコメントはハト派的との見方から欧州金利が急低下したが、ユーロ売りの動きは一時的にとどまった**。米国もFRBが年内の利上げ見通しを後退させるなど、主要国の中央銀行が揃って緩和的なスタンスを取る中で、金融政策の為替への影響が限定的となっている。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し (3月時点)】

	2019年	2020年	2021年
実質GDP成長率	+1.1	+1.6	+1.5
12月時点の見通し	+1.7	+1.7	+1.5
HICP (消費者物価)	+1.2	+1.5	+1.6
12月時点の見通し	+1.6	+1.7	+1.8

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg